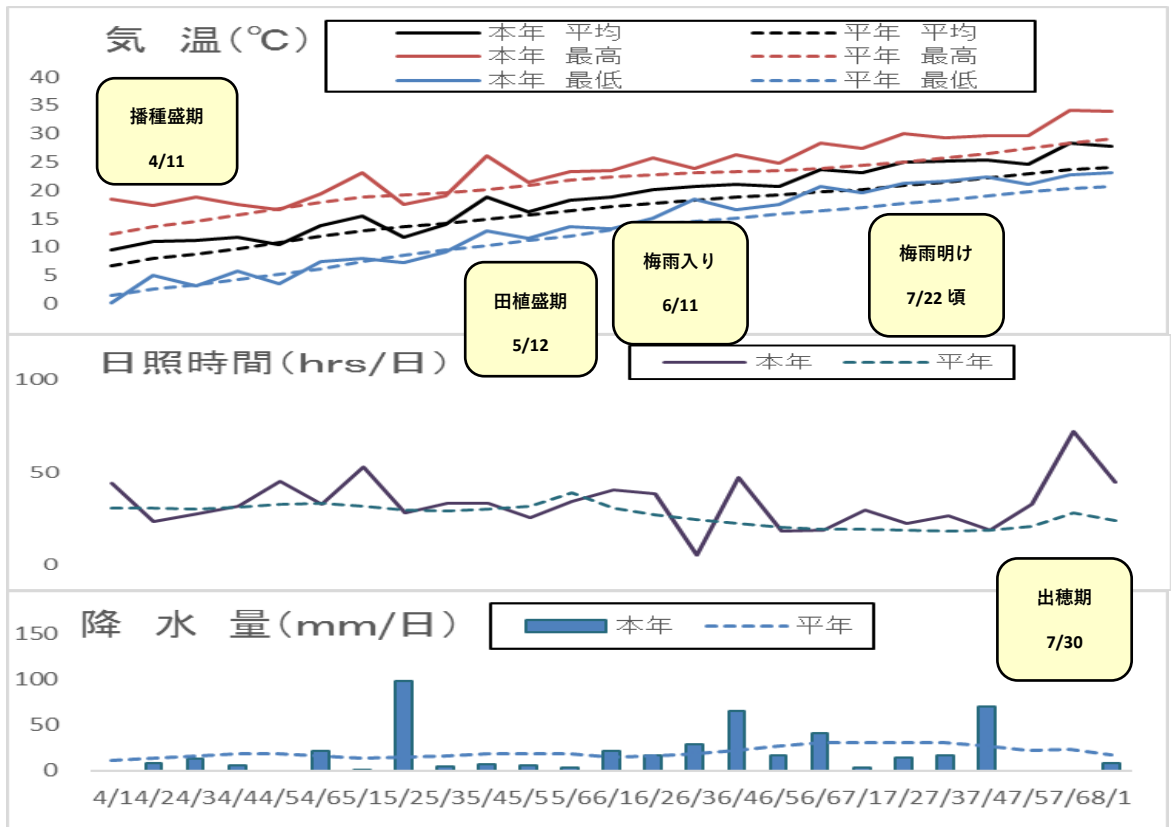


～今年の出穂期は 平年より3日早い 7月30日～

～7月下旬のカスマカメムシ類は平年の2倍以上！ 適期防除の徹底を～

1 令和5年の気象(古川アメダス)



◆8/3 発表 東北地方の1か月予報(8/5～9/4までの天候見通し)【気象庁ホームページより】

- ・東北太平洋側では、天気は数日の周期で変わる。期間の前半は、気温がかなり高くなる見込み。
- ・向こう1か月の気温は、高い確率70%，平年並みの確率20%，低い確率10%。
- ・降水量は、多い確率40%，平年並み若しくは少ない確率30%。
- ・日照時間は、平年並みの確率40%，多い若しくは少ない確率30%。

気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%)			
気温	東北地方	向こう1か月 08/05～09/04	10 (低) 20 (平) 70 (高)
		1週目 08/05～08/11	10 (低) 10 (平) 80 (高)
		2週目 08/12～08/18	10 (低) 20 (平) 70 (高)
		3～4週目 08/19～09/01	20 (低) 30 (平) 50 (高)
降水量	東北地方	向こう1か月 08/05～09/04	30 (低) 30 (平) 40 (高)
日照時間	東北地方	向こう1か月 08/05～09/04	30 (低) 40 (平) 30 (高)

■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

2 生育状況

(1) 作況試験 5月10日植え ひとめぼれ 7月20日現在 (古川農業試験場)

- ・草丈は平年より長く、茎数は平年より多く、葉色は平年よりやや低い。
- ・葉数は平年よりやや多く、**減数分裂期は7月20日頃と推定される。**

移植日	草 丈		茎 数		葉 色		葉 数	
	本 年 (cm)	平年比 (%)	本 年 (本/m ²)	平年比 (%)	本 年 (GM値)	平年差 (GM値)	本 年 (枚)	平年差 (枚)
5月10日	80.1	111	623	110	35.1	▲ 1.9	12.3	0.9

(2) 生育調査ほ 県内品種別 7月20日現在 (農業改良普及センター)

- ・草丈は各品種とも平年より長く、茎数は平年並み～少なく、葉色は平年並み～やや低い。
- ・**葉数は平年よりやや多く、生育ステージは平年よりやや早い。**

品種名	草 丈		茎 数		葉 色		葉 数	
	本 年 (cm)	平年比 (%)	本 年 (本/m ²)	平年比 (%)	本 年 (GM値)	平年差 (GM値)	本 年 (枚)	平年差 (枚)
ひとめぼれ	79.4	109	475	95	33.8	▲ 3.7	12.5	0.5
ササニシキ	78.1	111	479	86	34.7	0.2	12.2	0.3
つや姫	76.3	112	494	98	36.1	▲ 4.4	11.9	0.5

(3) 出穂状況

- ・7月31日現在、水稻作付面積の74%の水田が出穂期に達している。**県全体の出穂期は、7月30日で平年より3日早い。**

区 分	出穂始期 (5%)	出穂期 (50%)	穂揃期 (95%)
本 年	7月26日	7月30日	未
前 年	7月29日	8月3日	8月12日
平 年	7月29日	8月2日	8月10日
平年差	3日早い	3日早い	-

3 今後の管理

(1) 出穂後の水管理

- ・出穂直前から穂揃期は水を多く必要とする時期なので、湛水管理を基本とする。
- ・**出穂後に高温が続く場合は、乳白粒等の発生防止のため、以下のような水管理を行う。**

イ 走水等により土壌を常に湿潤状態に保つ保水管理

出穂後の水管理を保水管理で維持することにより、昼間深水・夜間落水管理ほどの効果は得られないが、湛水管理に比べれば「乳白粒」や「胴割粒」の発生が軽減できる。

ロ 昼間深水・夜間落水管理 (用水が確保できる場合)

晴天等の高温時において昼間はできるだけ深水管理とし、夜間は逆に落水管理とする水管理方法である。一日の用水温の推移をみると、気温よりも数時間遅れて水温の低下がみられるので、午前9～10時頃に灌漑し、気温が用水温を下回り始める午後4時頃に落水するのが望ましい。

(2) 病虫害防除（宮城県病虫害防除所）

① いもち病

- ・病虫害防除所が8月7日に発表した「発生予報第8号」によれば、穂いもちの発生量は「平年並み」と予測されている。
- ・葉いもちの上位葉での発病は、穂いもちの主要な伝染源となるため、ほ場を見回り、葉いもちの発生が確認された場合は直ちに茎葉散布剤による防除を実施する。

② 斑点米カメムシ対策

- ・7月下旬の巡回調査によれば、斑点米カメムシ類の発生は多い状況が続いており、特に、カスミカメムシ類幼虫の「すくいとり虫数」は平年の2倍以上で、過去10年中最も多かった。そのため、防除所では8月4日付けで「防除情報第5号」を発表し、適期防除を呼び掛けている（下図参照）。
- ・有効積算温度のシミュレーション及び定点調査の結果、アカスジカスミカメの第2世代成虫発生盛期は平年（8月第5半旬）より早い8月第2半旬と推測される。

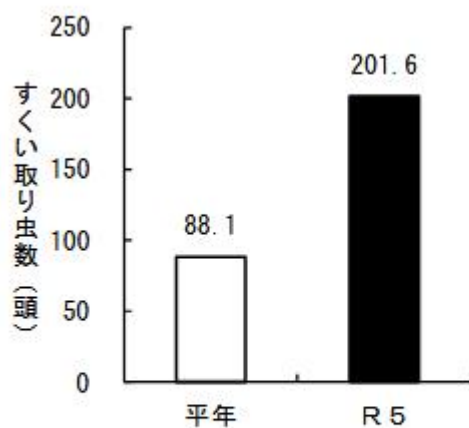


図1 草地におけるカスミカメムシ類幼虫のすくい取り虫数(7月下旬)
※イネ科植物が出穂している地点のみ集計



写真1 アカスジカスミカメ

- ・県全体の出穂期は、平年（8月2日）より3日早い7月30日であった。ほ場をよく観察し、適期防除を実施する。特に、出穂が遅れているほ場や晩生品種では、ほ場の出穂状況に注意する。
- ・大型の「クモヘリカメムシ（沿岸部から県北部の登米市、大崎市、栗原市に分布域拡大中）」は、水田に越冬世代成虫が侵入して、その後1世代を経過する。クモヘリカメムシの発生地域で、晩生品種の「つや姫」等を作付けしている場合は、被害リスクが高くなる可能性があるため、適期防除を実施する。
- ・出穂後に水田周辺の畦畔や雑草地の草刈りを行うと、成虫を水田内に追い込み斑点米の被害を助長する恐れがあるため、原則として行わない。やむを得ず草刈りを行う場合は、草刈り後ただちに水田への薬剤防除を実施する。